

令和2年度 学校法人静岡理工科大学 星陵中学校・高等学校 自己評価 学校関係者評価

どのような学校を目指すのか		校訓「誠実な心でことにあたる 友情の和を広げる 厳しさを自ら求める」の実践をとおし、比較優位性の高い「選ばれる学校」となる。						<h1 style="text-align: center;">学校関係者評価</h1> <p>※評価は、以下の基準に従い、各項目ごとに5段階で客観的に評価してください。</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 20px;">5</td><td style="width: 20px;">:</td><td style="width: 100px;">最も良好</td></tr> <tr> <td>4</td><td>:</td><td>ほぼ良好</td></tr> <tr> <td>3</td><td>:</td><td>普通</td></tr> <tr> <td>2</td><td>:</td><td>やや不良</td></tr> <tr> <td>1</td><td>:</td><td>不良</td></tr> </table>							5	:	最も良好	4	:	ほぼ良好	3	:	普通	2	:	やや不良	1	:	不良
5	:	最も良好																											
4	:	ほぼ良好																											
3	:	普通																											
2	:	やや不良																											
1	:	不良																											
基本方針		<ol style="list-style-type: none"> 1 時代が求める教育を展開する 2 地域有数の進学校となる 3 学園力を集結させる 4 高大連携、高専一貫教育を推進し、法人内学校との連携を深める 5 健全な運営体制を維持する 																											
昨年度の成果と課題		本年度重点目標		本年度重点施策		達成状況																							
◎学園の健全な運営体制を維持するための目標定員を確保した ◎時代に合った質の高い一貫教育を展開し、地域社会に貢献した。 ◎進学校として地域から評価される進路実績をあげた ◎新大学入試制度に対応する教育を展開した ◎学園の力を集結し「認知能力」及び「非認知能力」を育成した ◎時代が求める教育を展開し、21世紀型スキルを育成した ◎成果を求める教育を展開し、世界に発信できる授業を研究した		【入口目標】 ◎募集定員を充足し、地域のニーズに応える 【中身目標】 ◎主・対・深の学び、グローバル教育、ICT教育 働き方改革、星陵ラボ、入試改革、法人内連携教育 【出口目標】 ◎文理にバランスの取れた人材の育成		・「学力の3要素」を育て世界で通用する人材を育成する ・「校訓」の実現を目指す人材を育成する ・進学校としての地位を確固たるものにする ・21世紀型教育を展開し、地域社会に貢献する ・学園の健全な運営体制を維持するための目標定員を確保する ・国際的に活躍できる人材を育成するための教育を展開する ・学園力を集結させ法人内連携教育と法人内連携を推進する		目標達成 5 目標達成 4 目標達成 3 目標達成 2 目標達成 1																							
評価項目	具体的目標	具体的方策	自己評価		成果・次年度への主な課題	学校関係者評価							平均																
			評価	平均		評議員A	評議員B	保護者	同窓会	地域住民	地元企業関係者	教育関係者																	
総務部	学園の健全な運営体制を維持するため、効果的な募集活動を展開し、入学目標定員を獲得する。	正確な入試情報収集を行い、分析した情報を募集活動に活かした。 募集活動を計画的に実施し、本校の強みを最大限に広報した。	4 4	4.0	受験生動向と他校動向の情報を分析し受験者数の増加と質的向上を図る。 星陵の教育の特徴と中身に関する取り組みを受験希望者に発信する。	5	5	5	4	4	4	5	4.6																
	新型コロナウイルス感染症防止対策のため、早い時期から「準備・対応・連絡」を進め、円滑な学校行事を運営する。	学校行事、生徒募集活動等、組織力を持って対応した。 行事・活動実施に対する問題点・改善点を的確に把握し対策を講じた。 的確に状況を把握し「報告・連絡・相談」を行い、円滑に運営した。	4 4 4	4.0	内容と実施時期を検証、効果的な実施形態に向け検討を進める。 省庁から出されるガイドラインに従い、円滑な運営を可能とした。 コロナ禍における対応として、常に複数の代替案を考える。	5	5	5	4	5	4	5	4.7																
入試広報課	中学60名、高校400名の学則定員を確保する	オンライン教育の実施状況を適切に広報した。 コロナ禍における新しい広報スタイルを開発・実践した。	4 4	4.0	中学校・高等学校ともに学則定員を満たす質の高い生徒を確保できた。 ポストコロナ時代の募集活動のスタイルを開発する。	5	5	5	4	4	4	5	4.6																
総務課	「星陵の安全及び星陵に対する高い満足度」のイメージを作り、それを拡散する。	状況に応じた式典や行事を課内で検討し、立案・実行した。 防災組織マニュアルを更新し、年間を通じて防災意識を高めた。	4 4	4.0	いかなる状況でもオンライン等を活用し式典を重厚なものにする。 生徒・職員の防災意識を高め、防災マニュアルを充実させた。	5	5	5	4	5	5	5	4.9																
図書課	「不易流行」を保ちながら、星陵流図書コーナーを開発する。	ビブリオバトル、SDGs探究等で積極的に図書コーナー利用活動を行った。	4	4.0	日課に合わせて適正に安全にスクールバスを運行させた。 時代の変化に対応し、先進的の学校図書館構築のため、電子化を強化、ニューノーマル社会に精通した環境を整える。	5	5	5	4	4	4	5	4.6																
管理課	学習環境の整備・安全の確保をする。	年度初めに学習環境を整え、停滞することなくスタートした。 ICT機器の管理を徹底し、特別棟にICT機器を導入した。	4 4	4.0	生徒の状況を把握し、速やかに施設備品を準備する。 安心して学習や探究活動を行えるよう、セキュリティを管理する。	5	5	5	4	4	4	5	4.6																
教務部	GSTEAM教育・EdTech教育を通して、21世紀型スキルの育成を図る。	ICT機器を活用したオンライン教育を定期的・恒常的に展開した。 「主対深の学び」実現のための研究授業を定期的に開催し教員の授業力を向上させた。	4 4	4.0	オンライン型と対面型の長所を生かした教育形態を洗練させる。 新しい常態下におけるピアラーニングの研究をすすめる。	5	4	5	4	4	4	5	4.4																
教務課	2022年度からの高等学校学習指導要領による新教育課程を編成する。	入試で求められる能力を研究した。 教科横断的な視点で検討した。	4 4	4.0	3年間または6年間の学習計画をもとに、類型の種類や必修科目と選択科目のバランスを図る。	5	5	5	4	4	5	5	4.7																
教育相談課	生徒の健やかな登校をサポートする。	カウンセリングを活用し、生徒の抱える問題把握をし、解決のための指導を行った。	4	4.0	カウンセリング希望者増加への対応を継続して行う 生徒が抱える問題を早期に把握、問題軽減のため関係教員との連携を図る。	4	4	5	4	4	5	5	4.4																
21世紀型スキル推進課	星陵ラボの環境整備と成果の情報発信を行う。	教員へ生徒の指導法を発信し、良好な教育環境作りのため、情報を共有した。 オンラインでの発表会等に参加し、学外への情報発信に力を入れた。 コロナ禍においても可能な限りの活動を行い、生徒の能力の育成に努めた。	4 4 4	4.0	参加可能な発表会等の候補を増やし、情報発信の機会を増やす。 教科横断的な視点を取り入れ、活動をさらに発展させる。	5	4	5	4	4	4	5	4.4																
法人内連携教育推進課	法人内専門学校・大学との連携教育を通じて各校の魅力を生徒、保護者に伝え進学者を増やす。	予定された高大、高専連携教育を運営し適宜生徒への伝達を行った。 高大、高専連携教育の再構築案を検討し、次年度の計画を立てた。	4 4	4.0	今後の高校教育に対しての連携教育の在り方を引き続き検討し、主体的に取り組めるプログラムを構築していく。	4	5	5	4	4	4	5	4.4																
グローバル教育推進課	ICT教育を活用したグローバル教育を展開し、国際的に活躍する人材を育成する。	SEI（英語漬け）プログラムを対面とオンラインで行い、グローバル教育を展開した。 海外提携校3校とオンライン異文化交流を行い、校内留学体験を実践した。 多国籍講師とのオンライン英会話を実施し、年間を通じてグローバル教育を提供した。	4 4 4	4.0	対象生徒及び内容を拡充し、星陵グローバル教育に拍車をかける。 提携校生徒と協働し、新たな社会を創造するプログラムに改編する。 コロナ禍においてもグローバル教育を継続的に提供する。	5	5	5	4	5	4	5	4.7																
教科	国語	新カリキュラムを見据えた思考力を育成する授業展開を試行して、スキルを開発していく。	論理的思考力・判断力を育てるアクティブラーニング授業を展開した。	4	4.0	授業実践の共有により、ICTの活用方法を深化させていく。 単純暗記から、暗記した事項をもとに思考する授業を目指す。	5	5	5	4	4	4	5	4.6															
		ICTも活用し、確かな知識の土台を身につける工夫を行った。	4	単純暗記から、暗記した事項をもとに思考する授業を目指す。																									
	地公	主体的に社会に貢献できる人材を育成するために、事象の背景や影響を考察できる能力を養う。	入試問題分析を通じてデータ分析や論理的思考のプロセスの充実を行った。 アクティブラーニング型の授業を通して多面的なとらえ方・表現方法を体得させた。	4 4	4.0	資料・史料の読み取り、考察スキルの拡大をはかる。 具体的な時事的問題分析や政策提案につながる授業を展開する。	5	5	5	4	4	4	5	4.6															
		ICT教育を実践した授業実践を行うことで、大学入試制度に対応した論理的・創造的思考力を育成する。	ICT機器を活用した発表や討論、グループワークを積極的に行った。 授業実践例を共有し、アクティブラーニング型授業を実践した	4 4		ICT機器のより良い活用方法の検討を行い、実践する。 教科指導力を研究・実践する場を設け授業の質を向上させる。																							
	数学	大学入試制度に対応した教育を展開し、基礎・基本的な知識技能の習得や思考力・判断力・表現力を育成する。	ICT機器やCloudを活用した教科での教材の検討を行った。	4	4.0	さらなる教材の選定と効果的な指導について検討する。	5	5	5	4	4	4	5	4.6															
			アクティブラーニング型の授業を展開し、生徒の能力を育成した。	4		実施事例の収集と効果の検証を継続的に行う。																							
	理科	自己の心身の健康の保持増進を図るとともに、仲間と協働する態度やコミュニケーション能力を向上させる。	ICT機器を使用してオンライン授業を実施した。	4	4.0	ICT機器をさらに有効に活用できるよう研究する。	5	5	5	4	4	4	5	4.6															
			アクティブラーニング型の授業を実践した。	4		実施事例を共有し、より生徒の能力を育成できる授業を目指す。																							
	美術	主体的に作品制作に励む姿勢を育成する。	生徒が自分で考え、アイデアを出し、計画的に作品制作を進めた。	4	4.0	アイデアを形にする技術を身につける。	5	5	5	4	4	4	5	4.6															
			多くの芸術作品に触れ、芸術的感性を高めた。	4		計画的に作品制作を進めることを徹底する。																							
書道	主体的に作品制作に励む姿勢を育成する。	楷書体の基本や硬筆用具の特徴を生かした使い方を学習した。	4	4.0	直筆・懸腕の意義を理解し、正しい執筆の姿勢を作る。	5	5	5	4	4	4	5	4.6																
		日常的に最も多く使う行書体の筆力の向上を図った。	4		毛筆の特性を理解し、多様な用筆を身につける。																								
英語	ICT教育を実践し、英語の四技能を育む授業展開をする。大学入試制度に対応した力を育成する。	ICT機器を使用した双方向型の授業や指導を行った。 授業実践例を共有し、四技能を育む授業展開を研究した。	4 4	4.0	ICT機器をさらに活用し、生徒間議論をアクティブに行えるようにする。 生徒の思考力・判断力・表現力を伸ばす授業を目指す。	5	5	5	4	5	4	5	4.7																
		ICT機器を活用してプレゼンやグループ活動を行った。	4		生活の充実向上を図る能力と実践的な活動を行う。																								
家庭	家庭科で学んだ知識や技術を生かして、持続可能な社会をつくる一員となる。	家庭科と実社会の関りを意識した学習を行った。	4	4.0	家庭や地域の生活課題を主体的に解決する力を身につける。	5	5	5	4	4	4	5	4.6																
		生徒が主体的に考え、更にその考えを他者に伝達する技能を高めた。	4		個人の習熟度の違いに対応した授業を実践する。																								
情報	「情報」に対するスキルとリテラシーを育成する。	Officeを活用する技術を習得し、実践的な情報処理能力を育成した。	4	4.0	アプリケーションの活用能力を高め、他の授業でも活用する。	5	5	5	4	4	4	5	4.6																

指導部	生徒・保護者の求める進路を実現する。	コロナ禍における進路情報を的確に把握し、分析した。	4	4.0	入試改革が進む今後、情報をいち早く入手し、分析をしていく。	5	5	5	4	4	5	5	4.7
		共通テストに対して分析を実施し、指導に反映した。	4		共通テストの傾向分析はできたので対策をいち早く行う。								
		ICT機器による教育機会を増やし、学びを止めなかった。	4		ICT機器のそれぞれの特徴を生かし、複線化をはかる。								
大学進学指導課	生活指導を時宜に応じて的確に実施し、いじめはコプライアンスを遵守する。	校外指導に積極的に出かけ、事後ではなく事前指導を実施した。	4	4.0	SNSに対する教員の意識を向上させ、メディアリテラシーを高める。	4	5	5	4	5	4	5	4.6
		いじめアンケートを定期的を実施し、啓蒙活動に努めた。	4		さらに生徒の心に届く啓蒙活動を頻度を上げて実施する。								
		総合型選抜を積極的に活用することで生徒の進路希望の実現につなげた。	4		模擬試験結果の分析会を定期的を実施し、指導体制を強化する。								
進路課	大学入試改革に対応した進学指導体制を構築し、成果につなげる。	大学入試の変更点や動向等を素早く伝え、情報を共有化した。	4	4.0	進学講座や個別指導体制を見直し、進学実績につなげる。	5	5	5	4	4	5	5	4.7
		共通テストを分析し、今後の指導の方向性を明確化した。	4		各教科が抱える課題を把握し、指導体制を整える。								
		就職ガイダンスを通して企業が必要とする人材育成に努めた。	4		各企業の情報を集め生徒の現状に合った就職指導を行う。								
生徒指導課	学校推薦による就職希望者の内定率を100%にする。法人内各専門学校への進学者を増加させる。	法人内専門学校の魅力をアピールし入学者数の増加に努めた。	4	4.0	説明会を通して法人内専門学校の情報を生徒・保護者に伝える。	5	5	5	4	4	4	5	4.6
		全校集会やHRを通じて、校内外での社会的な規範意識を向上させるように努めた。	4		生徒の安全を守るため、連携の更なる強化を図る。								
		校外巡視を計画的に実施し、校外マナーの向上に努めた。	4		SNSを正しく利用できるようメディアリテラシーの指導を行う。								
保健体育課	感染症や怪我・事故から生徒を守るための対策をとり、安心して学ぶことのできる環境を整える。	体育的行事や検診等の時期や方法を見直し、安全にできるよう配慮した。	4	4.0	行事を通し非認知能力を高められるよう、実施方法等を検討する。	5	5	5	4	4	4	5	4.6
		体育施設や器具の点検、メンテナンスを実施した。	4		定期的に体育施設や器具の点検をし必要な改善をする。								
		主体的・対話的・深い学びの視点での授業を意識的に展開した。	3		大学入試改革への対応を順次進める。								
高校1年部	新大学制度に向けての基盤を作る。	美育プログラムをコロナ対応にシフトして週した。	4	3.5	美育プログラムの改善を加速する。	5	5	5	4	4	4	5	4.6
		クラッシュなどのオンラインツールを活用し、生徒の学習習慣を定着させた。	4		新大学入試の情報を収集し、発信する。								
		進路を明確に決定させ、必要な学力を付けさせた。	3		生徒の活動実績をまとめさせる。								
高校2年部	生徒個々の特性を活かした進路指導を実施し、進路実現に向けての基礎を固め、受験生としての意識向上を図る。	オンラインツールを活用し、生徒個々の進路希望に応じた進路指導を展開した。	3	3.5	受験指導に向け、ポートフォリオの内容の振り返りとまとめを行う。	5	5	5	4	4	4	5	4.6
		各種試験における目標偏差値を明確にし、生徒の現状把握と改善策を検討・実行した。	4		新入試制度分析結果に基づいた、個々の進路に応じた受験指導を行う。								
		新大学入試制度に対応する個別指導を実践した。	4		一般型生徒への教育力と推薦型生徒の推薦材料を豊富にする								
高校3年部	新大学入試制度に対応する教育を展開し、大学進学実績を積み重ね、進学校としての地位確固たるものとし、絶対的地位を築く。	模試後分析会を実施し、生徒の現状把握及び弱点の克服と伸長を図った。	4	4.0	入試問題の分析を今後の教科指導に生かす	5	5	5	4	4	5	5	4.7
			4										
		平均	4.0										

評価委員のコメント

・コロナ禍で学校運営や授業形態が大きく変化する中ででしたが、GIGAスクール構想にいち早く取り組んでいた成果は、高く評価されます。

・授業に遅れることなく、生徒の健康面等にも配慮したリモートワークの活用は、生徒の自主性などに大きく影響し、今後の社会における国際化や企業にとっての基礎となるものです。

・今回、コミュニケーションの大切さも感じたものと思います。コミュニケーションは通信媒体では出来ないものがあり、人間性の向上に必要な不可欠で自分自身や相手の気持ちを理解しあえるものです。

・今後も、「解なき時代」を担う生徒たちの為に、先を見越した教育・人間性の更なる発展を期待致します。

・2020年度は、新型コロナウイルスの影響により未だ経験したことのない1年間でした。多くの事業の中止や内容変更など大変だったと思います。しかし早い対応での結果、最小限の感染被害で治まったと感じます。

・2021年度もまだウィルスの脅威は続きます。我々も全力でサポートしていきますのでこれからもよろしくお祈りします。

・「生徒の自主性を育む」。多くの学校が、自校の特徴として上げる言葉ですが、星陵に学ぶ娘の姿を見ると、本校がいかに真摯に生徒の個性と自主性に向き合っているのかが良く分かります。現在は休止中ですが、東京での観劇や、伊豆での自然との触れ合いなど、多岐にわたるユニークな経験を通じ、子どもたちの興味は刺激され、自己を形成していきます。私たちの学生時代には決して得ることのできなかつた、豊かな夢の構築プロセスだと思います。自分が何になりたいのか。どんな人生を生きるのか。心の中に、しっかりとした指針を持ち、二度と来ない日々を大切に過ごしていけば、ただ受験のために勉強したり、部活動に励んだりするよりも、子どもたちはより強く、その将来の可能性は大きく広がっていくのではないかと思います。それは、本校の「10年、20年先を見据えた、視野の広いグローバル人材を育成できる学校である」という理念が実現されている証でしょう。

・環境変化に対する適応の速さも、本校の大きな特色ではないでしょうか。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、いち早くオンラインで授業の受けられる体制を整え、卒業式を始めとする式事にもITを導入し、会場の様子を教室に居る父兄の皆さんに届けられました。また、対面授業の再開も、他校に先んじて決断されたと記憶しています。これらを鑑みると、校長先生を始めとする職員の皆さんが、「生徒にとって何が一番大切か」ということを何よりも優先させるしっかりとした価値観を持ち、いかなる環境変化に際してもぶれない判断をしておられることが理解できます。メディアから、受験制度が大きく変わっていくことなどを見聞きし、多くの学校が対応に苦労されていることと存じますが、本校では迅速、柔軟に適応されていくことと確信しています。私自身が小さな会社の経営を通じ、環境変化に自社を適応させることがいかに困難かを実感しており、本校の運営や決断から、多くのことを学ぶことができました。

・自由奔放に青春を謳歌中の娘ですが、やがては本校の皆さんが示唆される日々大切さや人生の目的を見つけ、明るく楽しく高みを目指してのぼってくれる日が来ることを切に願っております。大変な状況ですが、皆様のいつものご尽力に感謝しております。

・コロナ渦の中において先生方の子供たちの成長へのご努力に感謝致します。

・コロナ渦の中において先生方及び同窓会役員とのコミュニケーションが希薄の為、学校の活動が見えていない状況があり申し訳なく感じております。

・星陵中学校・高等学校の評判を聞くと、良いことばかり耳にします。先日は、小学校4年制の子供達がすでに星陵中学校へ行きたいと言っていました。又、星陵高校を卒業し、大学へ進学した方のご両親にお話を聞く機会がありました。「先生方が熱心で、そして生徒一人ひとりのことを考えてアドバイスしてくれて、本当に良かった。希望の大学にも合格できた。先生方のおかげです。」と喜んでおられました。まさに、校訓どおりの『選ばれる学校』ではないでしょうか。

・生徒の半数以上がスクールバスを利用し登下校をしているため、黒田区周辺の朝の交通渋滞を回避することができている。近隣の住民や通学する児童・生徒の安全が守られ評価されている。

・コロナ禍の中で学校があらゆる方策を探し出し迅速に対応されていることにたいへん評価しています。また、生徒の指導についても愛情を持って丁寧にご指導されている事はすばらしいことと感じております。

・コロナが終息するまでさらに時間が掛かりご苦労されることが続くと思いますが、学校が一丸となって生徒のために乗り越えて行く事を信じております。

・最後に突然周りの環境が変わっても柔軟に対応できる生徒を育てていただき、卒業生が社会に出て活躍されることを今後も期待します。